

## 新しいコミュニティのあり方に関する研究会（第8回）議事概要

1 開催日時 : 平成21年4月27日(月) 15:00~17:00

### 2 議事の概要 :

#### (1) 委員報告

- 「コミュニティと建築」(妹島構成員)
- 「新しいコミュニティに対応した公共空間が求められている」(中崎構成員)

#### (2) 事務局報告 : これまでの議論(論点)について、調査について

#### (3) 意見交換等

##### ○ 人が集まりつながる空間

- ・ 人間が集まるだけではなくて、つながっていくことを重視した空間というのを端的に表現するような言葉はないか。
- ・ そのような言葉はないのではないか。名前をつけてしまうとその空間が1つの機能になってしまい自由に何かできるスペースではなくなってしまうという意識があるのではないか。
- ・ 空間に特定の名前を付ければ、人同士がつながる場所になるという考え方をしてしまうのは危険。一見人に開いているというような名前や材料を使って空間を作るだけでは人はつながらない。
- ・ つながり方がはっきりわかれば、名前も自然についてくるのではないか。

##### ○ 新しいコミュニティのための施設・空間

- ・ 人間同士が、互いに見ようと思えば見れる、集まりたければ集まれる、またちょっとさがりたければさがれるような空間が望ましいのではないか。
- ・ 機能に合った建物を考えることは重要だが、同時に、その都度機能を話し合っ使い方を考えていけば、どんなことにでも使える建物を考えることも重要ではないか。例えば建物を初めから2つに分けたら、それぞれの建物に入る人は互いに混じり合わないが、一つの建物にすれば、分けることもできるし、つながりを持つこともできる。
- ・ 既存の商店街や観光協会の事務所に一般の人が入っていくのではなくて、コミュニティ施設的な要素があるところをまずつくって、商店街組合や観光協会の人たちも、そこの一部を活用す

るというような形の新しいものをつくっていくのがよいのではないか。

- ・ 地域の人が集まりつながる空間には、やはりコーディネーター的な役割をする人とコンテンツが必要なのではないか。あまりかっちりとしたものではないが、なにもないとやはり空間は利用されない。
- ・ これまでコミュニティ施設として作られてきたものは多くが用事のある人しか行かない場所だったが、地域の人々が緩やかなつながりを求めて集まるような場所に対するニーズもかなりある。それは今のところ、例えばコミュニティ・カフェのような形で、民間が供給しているが、そこに政策が入り込む余地はかなりあるのではないか。

#### ○ 今年度の調査について

- ・ 全く地縁的組織と縁のないようなNPOと地縁的組織の連携を調べる必要がある。このような連携は主に都市部で見られるため、調査対象に都市部も含めるべき。
- ・ 総務省の政策提案につなげていくためには、市町村とのつながりを着眼としてもっと入れて調べる必要がある。
- ・ 市町村とつながりを持って活動している団体とそうでない団体がある。つながりを持たずに自主的にやっているところについても、一つのやり方として情報提供していくこともこの研究会の役目ではないか。
- ・ 確立された組織を持たなくても、多様な主体が連携して活動を行っている地域はある。初めから有名な組織ばかりピックアップするのではなく、市町村にそのような地域を紹介してもらうのも一つの方法ではないか。
- ・ 多くの地域について基本的なデータを収集して、その中からいくつかの地域について掘り下げて調査してはどうか。
- ・ コミュニティや市民活動を支援する課が多くの市町村でできてきているが、そのような市町村の多くがこれからコミュニティ施策に力を入れていこうとしていると考えられるので、調査の対象としては適当ではないか。